

#6 Team LeMans Audi R8 LMS  
Yoshiaki Katayama  
Roberto Merhi Muntan



## 大会概要

2022年 SUPER GTシリーズ 第3戦

## 大会名称

2022 AUTOBACS SUPER GT Round3 たかのこのホテル SUZUKA GT 300km RACE

## 開催日時

5月28日 土曜（予選） 5月29日 日曜（決勝）

## 開催サーキット

鈴鹿サーキット（1周：5.807km）

所在地：三重県鈴鹿市稲生町7992

## 同時開催レース

2022 FIA-F4選手権 第3戦・第4戦

Porsche Carrera Cup Japan 2022 第5戦・第6戦

## 主催

関西スポーツカークラブ（KSCC）／鈴鹿モータースポーツクラブ（SMSC）／  
ホンダモビリティランド株式会社

## 公認

国際自動車連盟（FIA）

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

## 認定

株式会社GTアソシエーション

## 後援

経済産業省／国土交通省／自由民主党モータースポーツ振興議員連盟／三重県／鈴鹿市／  
鈴鹿F1日本グランプリ地域活性化協議会／一般社団法人鈴鹿市観光協会／鈴鹿商工会議所

カト一機械株式会社

JOTO DIRECT



Western Digital.

さかくら耳鼻咽喉科



## ◆ 参戦体制

## ■ ドライバー



片山 義章  
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日  
出身地 愛知県  
身長 168cm  
体重 69.3kg  
血液型 RH+O



ロベルト メルヒ ムンタン  
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日  
出身地 スペイン  
身長 178cm  
体重 70kg  
血液型 RH+O

## ■ 監督



小倉 啓悟  
KEIGO OGURA

## ■ スタッフ

チーフエンジニア 近藤 良一  
チーフメカニック 田村 貴史

## ■ スポンサー

ザーレン・コーポレーション株式会社	株式会社デジテックエイチピー
TONE株式会社	コスモ開発株式会社
ニチアス株式会社	ウエスタンデジタルジャパン株式会社
エバー株式会社	医療法人さかくら耳鼻咽喉科
カトー機械株式会社	ARMS株式会社
城東電機株式会社	ブランデュース株式会社
株式会社ジョイフル設備	株式会社PACIFIC RACING TEAM
青山エレベーター株式会社	B.R.M / Viron Japan 株式会社
岡田金属株式会社	高新自動車学校
	見田工作株式会社



## ◆ 予 選

天候・・・晴れ

コース状況・・・ドライ

気温・・・28℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度・・・44℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始・・・15時13分 (GT300クラスQ1-B組開始)



Aドライバーに片山義章、BドライバーにF1参戦経験のあるスペイン人のロベルト・メルヒを起用し、SUPER GT GT300クラスに参戦するTeam LeMans。新体制で挑んだ2022年 SUPER GTシリーズ 第2戦の富士から約3週間後の5月28日～29日、鈴鹿サーキットで開催される第3戦に臨んだ。5月28日は決勝のスターティンググリッドを決めるノックアウト方式の予選が行われた。参加台数が多いGT300クラスでは、A、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。鈴鹿サーキットの第3戦には27台が参加し、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはQ1-B組からQ2進出を狙う。

## #6 Team LeMans Audi R8 LMS

## 予選結果：18位 (予選Q1ベストタイム：1分58秒701=メルヒ選手)

夏を思わせる強い日差しが降り注ぐ鈴鹿サーキットでは、予選当日の午前中に公式練習が行われた。ここでチームとドライバーは予選・決勝に向けてマシンのセットアップを詰めていくが、強めのオーバーステアを見せるAudi R8 LMSに手こずり、最適なセットアップを探しあぐねていた。

思うようにセットアップが進まないまま、15時13分には公式予選B組が始まる。チームは、前戦の富士で予選を走行できなかったメルヒにQ1を託す。メルヒは、計測3周目に1分58秒701をマークし、この時点でQ1通過圏内に。その後、ライバルが自己ベストを更新するなか、メルヒは計測4周目に自己ベストを更新できない。その結果メルヒのベストタイムはQ2進出ラインの8位にコンマ451秒及ばず、残念ながらQ1敗退。決勝レースでは18番グリッドからのスタートになる。



## ◆ 決 勝

天候・・・晴れ コース状況・・・ドライ

気温・・・30℃（スタート時）

路面温度・・・50℃（スタート時）

決勝レース開始・・・14時40分

レース予定周回数・・・52周（約300km）



## #6 Team LeMans Audi R8 LMS（片山&amp;メルヒ選手）

**決勝結果：18位（所要時間：1時間57分53秒242=48周消化／ベストラップ：2分1秒568=メルヒ選手）**

夏空が広がる鈴鹿サーキットは、気温30℃、路面温度50℃と、前日をさらに上まわる厳しいコンディションで、決勝レーススタートの14時40分を迎えた。今回は片山がスタートを担当する。2周のフォーメーションラップのあと、ローリングスタートで始まった決勝は、片山が着実にスタートを決めるとともに、オープニングラップで2つ順位を上げて16番手でメインストレートに戻ってきた。

2周目にはGT500のマシンが逆バンクでストップしたことからFCY（フルコースイエロー）が導入され、また、10周目にもGT300のマシンがシケインでクラッシュしてセーフティカーが導入されるなど序盤から荒れた展開に。そんななか、参戦2年目となる片山はこうした事態への対応にも慣れ、安定した走りを見せてくれた。

15周を終えたところで片山がピットに入り、メルヒにステアリングを委ねる。給油とタイヤ交換を済ませたマシンはコースに戻るが、運悪くGT500クラスと絡むことになり、さらにタイヤが路面のゴム片を拾い、ピックアップの問題を抱えてしまう。ペースを上げるのでできないメルヒだったが、それでもすべてのマシンがドライバー交替を終えた26週の終了時点で19位に留まり、周囲とほぼ同じペースで周回を重ねていった。

しかし、レース中盤、リアタイヤの負担が大きいAudi R8 LMSにタイヤトラブルが発生し、メルヒは34周を終えたところでイレギュラーのピットストップを強いられる。18位でコースに復帰したメルヒは、2回目のセーフティカー導入後に本来の速さを取り戻すが、順位を上げるまでにはいたらず、トップから1周遅れ、18位完走でレースを終えることになった。

チームにとってはレースウィークを通じて厳しい状況が続いてしまっただけに、今回のセットアップや戦略を検証し、次の第4戦富士でのQ1突破と上位入賞を狙う。



### 片山 義章 選手のコメント

スタート直後に2つ順位を上げることができましたが、マシンはBoPを含めて相当厳しい状況でした。これからセットアップやレースのストラテジーなどをチームと話し合っ、改善策を見だしていきたいと思ひます。ロベルト選手は、DTM、WEC、F1などいろいろなレースに出所経験があるだけに、われわれとは違ひる視点でアドバイスし、チームに新しい風を吹き込んでくれます。とても気さくな性格なチームメイトはドライビングについてもいろいろ教えてくれたりと、良い意味で刺激になっています。それだけに、マシンが速くなれば良い結果が出せると思ひます。次戦に向けてもチーム一丸となって表彰台めざしますのて、引き続き応援よろしくお願ひします。



### ロベルト・メルヒ・ムンタン選手のコメント

予選、決勝ともに、なかなか難しい戦いになってしまいました。セットアップやストラテジーにはまだ見直す余地があるはずですし、タイヤのトラブルにも見舞われましたので、次の富士や鈴鹿に向けて、しっかりと対策をしたいと思います。GT500とGT300が混走で戦うSUPER GTは、レース途中でいろいろなことが起こりますが、ドライバーの視点でもそういうところは面白いし、ファンの皆さんにも楽しんでもらいたいと思ひます。次の富士も頑張ります。アリガトゴザイマス！



### 小倉 啓悟 監督のコメント

今回は予選前の公式練習から、思うようにセットアップが進まず、ライバルに対して速さが足りないなど、厳しい戦いになりました。決勝でも、ピットアウトのタイミングでGT500クラスに絡むことになったり、タイヤがピックアップの影響を受けたり、タイヤトラブルに見舞われたりと、不運が重なりました。これらを貴重な経験として受け止めるとともに、マシンのセットアップやストラテジーをチームとしてしっかりと見直して、次戦に生かしたいと思ひます。

